

学校教育目標 『目標を持ち、その実現に向けて粘り強く努力する生徒の育成』

重点目標	評価内容	保護者アンケート				生徒アンケート				教職員自己評価		総合評価	改善策等概略
		保護者アンケート	A+B	生徒アンケート	A+B	評価項目	A+B	評価項目	A+B				
1 確かな学力の育成	指導 小規模校の特徴を活かしたきめ細かな	「わかる授業の実現」のために指導法の工夫・改善に努め、確かな学力を身につけさせる	学校は子どもの学力向上のために努力している	A (93)	授業中の先生の説明が理解できる	A (100)	生徒にとって分かりやすい授業を行っている	A	A	A	A	今まで以上にわかりやすい授業を推進する。	
		教育活動全体を通して言語活動を充実させ、活用力を育成する			先生は丁寧に授業をしてくれ、質問や疑問に答えてくれる	A (94)	生徒の興味・関心を高め、授業の工夫や改善を行っている	A					
		基礎学力を定着するために各種コンテストではスモールステップでの組織的な取り組みを実践する	学校は子どもの基礎的な学力（漢字・計算・英単語・重要語句など）の定着に努力している	A (100)	授業中自分の意見を書いたり自分から発言したりすることができた 友達の意見や発言が自分にとって参考になった。	B (88) A (94)	「書くこと」「根拠を述べること」を重視し、教育活動全体を通して表現の場を設定している	A	A	本校の課題である活力を育成する部分で生徒が積極的に取り組んでいないところがある。グループ学習やペア活動などをとおして改善を図る。			
		家庭学習が充実するように、個々の生徒に応じた課題提出等のきめ細かな取組を工夫する	子どもは1時間以上の家庭学習をしている	C (71)	先生は宿題やプリントなどをチェックを入れて返してくれる 課題（宿題）以外に自分で考えて家庭学習ができた	A (100) C (56)	提出された宿題やプリントのチェック・添削などきめ細かな指導を行っている 生徒に出す課題は、一人ひとりの手の届くものになっている	A A	C	基礎学力調査や市の学力テストの平均を見ると県や市を上回っているが、生徒は身につけていないと評価している。基礎的な漢字やドリルを放課後学習に入れる。 宿題はできるが、課題を見つけ自学するところまで育てていない。家庭学習の仕方などの手引きを利用し、保護者にも手伝ってもらって改善を図る。			
2 豊かな心・健やかな身体の育成	指導 思いやりの心、たくましさ、積極性を育む	生徒理解に努め、一人ひとりの問題や悩みにきめ細かく対応する。努力や良さを認め励まして自信を持たせる。	子どもはいじめや仲間外れなく、友達と仲良くしている	A (100)	学校が楽しく、友達とも仲良くしている	A (100)	職員間の情報交換や教育相談を実施するなど生徒理解に努めている	A	A	A	A	一部の生徒で、悩みなどが相談できないことから、話しやすい教育相談の雰囲気をつくる。また、いろいろな角度から情報を収集し、漏れないような指導体制を確立する。	
		キャリア教育を推進し、将来を見据えた有意義な中学校生活を送らせる	学校は子どもたちの悩みに適切に対応している	A (92)	先生はあなたの話や悩みを聞いてくれる	B (88)	生徒を励まし、応援するようにしている 生徒のよい面を認め、伸ばそうとしている	A A					
		道徳や特別活動、地域での自然体験やボランティア活動などを充実させて、思いやりの心を育成する	子どもは学校行事に楽しく参加している	A (100)	学校行事は楽しい	A (94)	学校行事や地域での活動等を通して道徳的実践力をつけさせている	B (86)	B	保護者や生徒は進路への関心を持ち、自己実現に向けて取り組んでいるようだが、教師の方で指導に迷っているところがあるのか、その原因を全員で共通理解が持てるようにする。			
		学習や部活動を通して、継続して取り組む粘り強さやがまん強さを育成する	子どもは楽しく登校している	A (100)	苦手教科の克服に取り組むことができた	C (63)	学校生活ですべての生徒が活躍する場を設定し、達成感や満足感を持てるようにしている	A	B	学校が楽しく、友達関係も良好である。しかし、保護者では、子どもとの関係に満足せず課題があるようである。懇談や授業参観、学校行事などを通して家庭の様子について調査する。			
			子どもは楽しそうに部活動に参加している（参加していた）	A (93)	部活動は楽しい（楽しかった）	B (88)					苦手な教科に対し、そのままにしてしまう傾向にある。長期的な休みやほかご放課後学習などで、苦手教科の克服を図る。		
3 教育環境	指導 教育環境の整備と充実	読書に親しみ、積極的に読書する体制の確立を図る 5000ページ目標	読書をするための環境の整備をしている	A (100)	図書館司書を利用し沢山の本を読んでいる	B (81)	語彙力を増やすよう、読書を積極的に進めているか	A	A	A	市内の学校に比べ読書量が多い。継続的に指導し語彙力が豊富になるよう支援する。		
		施設整備の整備・点検や美化に努め、教材・教具など、安全で整った教育環境を作っている	整備・点検や美化に努め、教材・教具など、安全で整った教育環境を作っているか	B (86)			安全点検だけでなく、教室掲示や廊下など施設や環境の整備に努力している	A	B	現在仮住まいの中で、最大限廊下の壁などを利用して環境整備を手掛けている。			
		一貫校として両校職員の連携した教育活動を実践している	一貫校としての準備がなされていると思えるか	B (80)			小中連携した教育活動が進んでいると感じるか	A	B	小中が一緒になって合同の研修や子どもたちの活動なども行っている。さらに、できるものは取り組んでいく。保護者にその活動が見えない部分があるのでお便りやHPで知らせていく。			
4 学開校づくりの組織的推進	指導 小域学校と連携する・地域	学校からの情報発信を増やし、開かれた学校づくりを行う	学校は、学校便りやホームページで学校の様子を分かりやすく知らせてくれる	B (86)	学校は、学校生活や自分達の様子を家庭や地域の人たちによく知らせてくれる	A (100)	学校便り等により定期的に情報を発信し、学校の教育活動について保護者・地域に説明している	A	A	A	さらに情報の発信		
		保護者や地域の声に真摯に耳を傾け、教育活動の改善に活かす	学校は保護者（地域）の声や要望を汲み取る努力をしている	A (100)	地域の人たちと交流したり、話を聞いたことはよい経験になった	B (81)	家庭や地域と連携して特色ある教育を進めようとしている 小学校と連携し、9年間の系統的な指導をめざしている	B (86) B (86)	B B	B B	地域行事のねらいや達成感などを調査し、地域との交流がいかに大切なものであるかを確認し、地域の良さを伝えていきたい。		

【注】A・・・当てはまる B・・・どちらかという当てはまる C・・・どちらかという当てはまらない D・・・当てはまらない ※ A+B: 肯定的な意見 ※ アンケート項目にないところは斜線

◎学校関係者評価委員からの意見・提言

- 学力だけでなく、生きていくための力、コミュニケーション能力を高めるよう一層努力する。
- 苦手教科の克服を図るための、手立てをし、積み残しのないように。
- 体験学習もたくさん行われているが、行事をこなすだけにならないで、質をより高める。
- 小中一貫校への準備がなされていると思うが、細かな計画の中で進めてほしい。